

大学

アーカイブズ

全国大学史資料協議会東日本部会会報

2007.10.31 No.37

Eastern Japan Section, The Japanese
Association of College and University
Archives

目 次

- ・村松玄太「小松修氏『日本大学百年史』編纂の総括と展望」を聞いて」 1
- ・西嶋優「東京都写真美術館を見学して」 2
- ・全国大学史資料協議会東日本部会2007年度総会議事録（抄） 4
- ・全国大学史資料協議会東日本部会幹事会議事録（抄） 5
- ・全国大学史資料協議会東日本部会研究会記録（抄） 8

2007年3月15日(木) 研究会

小松修氏「『日本大学百年史』編纂の総括と展望」を聞いて

明治大学史資料センター 村松 玄太

年史編纂とはおよそ時限的な事業であり、年史の刊行や関連諸事業の完結にともない終了する。しかしここで得た資料や知見などの膨大な所産は大学に残されることになる。これらをどのように活かし、将来のより大きな調査・研究活動へと結び付けていかなければよい。この問題意識の表れが「年史編纂から大学アーカイブズへ」という、大学史を一過性なものに終わらせず恒常に位置づけようとする動きにほかならない。

2007年3月15日の研究会での小松修氏（日本大学資料館設置準備室）による報告もその問題意識に立ってなされたものである。小松氏は自らの関わった『日本大学百年史』の編纂事業の経過を振り返ってその成果と問題点

を確認した上で、今後の大学史の活動に関する見通しと諸課題を提示した。

報告は「1 『日本大学百年史』の編纂」「2 成果と問題点」「3 今後の大学史に関する諸活動」の三つの柱に基づいて展開された。1の冒頭で小松氏は1988（昭和63）年に本格的に編纂を開始した『日本大学百年史』の方針について述べた。すなわち「記念事業としての自己満足的な大学史を克服し」、厳密な資料検証に基づき近現代史のなかで日本大学の担った役割を明らかにしようとしたことが指摘された。

内容構成・編纂体制・各巻の内容・学祖山田顕義の位置づけ等についても詳細にわたつて報告があった。とりわけ興味深かったのは、



報告する小松修氏

資料編（第4巻）よりも先に本編（通史編・第1、2、3巻）の刊行を行った経緯についてである。結果として本編から資料編の独立性を高めることにした点など、様々な工夫について報告があり、年史編纂の多様な形態を知る上で非常に参考になった。

2については正負含めて率直な報告があった。成果としては学内残存法人文書、学外公文書などの資料を活用して、学祖山田顕義と創立者たちの位置付け、財政面、学徒動員、戦前学内紛争、日大紛争などを盛り込めた点が指摘された。他方で問題点として部科校史との関係の不明確さ、卒業生の動向、学術史、他大学史との比較、大学の自己評価、多様な

読者への対応が不十分だった点が挙げられた。

報告の締めくくりとなる3では、百年史編纂の道筋を踏まえた上で、現在資料館設置準備室が行っている諸活動と今後の課題について展望が示された。小松氏は『百年史』の編纂理念を継承しながら、大学史編纂課・資料館設置準備室と学内類縁諸機関が連携して活動を進めることが重要であると指摘した。また資料調査・展示・資料のデジタル化・自校史教育など現在の準備室の活動について触れ、『百年史』の編纂終了を出発点として、資料館の設置に向けて積み残された課題を取り組んでいることが述べられた。報告終了後討論が行われた。冒頭『日本大学百年史』を監修した村井益男氏から同年史の成立に関わる経緯が補足的に示された。討論では年史に使用した資料の取扱いや、資料館準備室と大学史編纂課との関係について質疑が行われた。

なお研究会の実施前に、設置準備室によるミニ展示「山岡萬之助総長とその時代」（日本大学会館2階資料館設置準備室前ギャラリー）を見学した。展示も年史編纂後の有効な資料利用の一環であり、その実践例として興味深いものだったといえる。

2007年7月10日(火) 研究会

東京都写真美術館を見学して

東京農業大学図書館 西嶋 優

第56回全国大学史資料協議会東日本部会研究会は2007年7月10日に「東京都写真美術館」において行われました。恵比寿ガーデンプレイスの一角にある東京都写真美術館は、写真と映像に関する総合的な美術館であり、館内には3つの展示室をはじめ世界的にも数少ない写真・映像に関する美術館としての設備を

備えています。個人的にも行ってみたいと前々から思っていたので、今回の研究会はとても楽しみにしていました。

まずは、会議室において副館長からの挨拶があり、その後は参加者が二手に分かれて、それぞれ「保存科学研究室」においては写真保存技術に関するレクチャー、「作業室」に

おいては写真展示資料の取り扱い・保管・展示方法の説明を受け、引き続き「図書室閉架書庫」での概要説明、企画展「昭和」、企画展「世界報道写真展2007」見学と非常に密度の濃い研究会となりました。今回はそれらを中心に見学することになりましたが、他にもホールでの上映があり、ミュージアムショップでの販売あり、カフェの併設あり、加えてアトリエでの体験、図書室での閲覧などもできるようになっており、半日では回りきることができないほどでした。

保存科学研究室では、写真の保存に関する科学的な説明があり、紙媒体の図書や雑誌とは違った写真特有のデリケートな特性（温度、湿度、PHなど）があり、それらが資料の保存状態を大きく左右することがわかりました。また、モノクロ写真、カラー写真、ネガなどの種類によって適切な温度や湿度があることもわかりました。このような点を踏まえた上で、東京農業大学図書館においても写真資料・映像資料についての保存方法に関して再確認が必要だと痛感しました。

作業室でまず目をひいたのは、大きなエレベーターでした。トラックも入るというその大きなエレベーターは、展示資料を容易に搬入することができる反面、資料の保管面では注意しなければならない虫の卵や虫類が作業室あるいは保管室に入ってしまうリスクがあることが考えられ、作業室の入口にバグトラップが置いてあったのは、そのためと思われます。作業室に入る時も、滅菌対策としてビニール製の粘着性シートが設置されており、そこで足をつけた上、スリッパに履き替えて入室するようになっていたのが印象的でした。

図書室の閉架書庫では、電動集密書架がぎっしり並んでいて、美術館独自の分類方法で配架されていました。保存用の図書・雑誌には、



館の説明をする今村保雄副館長
ポリプロピレンのカバーが付けられており、
温度、湿度を一定（温度20℃、湿度42～43%）
に保ちながら資料が保管されていました。国
内外問わず貴重な資料が見受けられ、収集の
対象も広いと感じられました。

企画展「昭和」では、昭和を語る上で外せない人物を撮影した写真作品が数多く展示されていて、各ブースに担当者も配置の上、閲覧できるようになっていました。昭和を代表するような雑誌の現物も多数展示されており、飽きさせない工夫が見られました。写真に写されていた人たちも昭和を代表するような人々が多かったですが、写真家も有名な写真家が多数並んでいました。

「世界報道写真展2007」は、ドキュメンタリー感がストレートに伝わってくる写真が並んでいて、世界の現実をさまざまと見せつけられるようなインパクトの強い写真が展示されていました。サブタイトルの「地球上でおきている、この瞬間を忘れないように」のとおり見る側に訴えかけてくるものがありました。

今回の研究会で唯一残念なことは、あまりゆっくりと上映会の視聴や図書室での閲覧ができなかつたことですが、その点を除いては非常に内容のある充実した研究会であったと思います。

**全国大学史資料協議会東日本部会
2007年度総会議事録（抄）**

日 時 2007年5月24日(木) 14時～17時
会 場 日本大学会館第2別館(日本大学大
学院総合科学研究所)B2・大会議室
部会総会の成立

*現会員数と出欠状況

名誉会員

<総 計>3 <出 席>1
<欠席届>0 <未回答>2

機関会員

<総 計>59 <出 席>25
(47名)

<欠席届>18 <未回答>15
<休 会>1

個人会員

<総 計>23 <出 席>4
<欠席届>5 <未回答>14

オブザーバー

<出 席>1

合 計

<総 計>85 <出 席>31
(53名)

<欠席届>23 <未回答>31
<休 会>1

*総会定数は、機関会員59の(2分
の1)=30です。

*部会規約11条第5項にもとづき、
欠席届を総会議長への委任状とする
ため、出席(25)と欠席届(18)の
合計は(43)となり、部会総会は成
立しました。

出席校 神奈川大学 慶應義塾 國學院大學
国士館 上智大学 成蹊学園
専修大学 創価大学 拓殖大学
大東文化大学 中央大学 東海大学
東京経済大学 東京農業大学
東洋英和女学院 東洋大学

東洋大学校友会 日本体育大学

日本大学 法政大学 北海道大学

武藏野美術大学 明治学院

明治大学 立教女学院

青柳小百合 内山 宏 田原 浩平

中村 青志 西山 伸 東田 全義

(出席者合計53名)

開会の辞 鈴木 秀幸氏

(明治大学史資料センター)

議長の選出 議 長 益井 邦夫氏

(國學院大學学術

メディアセンター事務部)

副議長 浅沼 薫奈氏

(大東文化大学

大東文化歴史資料館)

議 事 1、2006年度事業報告・同決算報告
について

昨年度事業報告につき、幹事会
(事務局中央大学) より、配付資
料「全国大学史資料協議会東日本
部会2006年度事業報告書」にもと
づいて事業報告があり、次いで、
会計委員(慶應義塾)より配付資
料「2006年度収支決算書」にもと
づいて収支決算が報告された後、
監査委員(日本大学)より決算が
適正であった旨の監査報告が行わ
れ、各報告の通り満場一致で承認
された。

2、2007年度事業計画案・同予算案
について

本年度事業計画案につき、幹事
会(事務局中央大学)より配付資
料「全国大学史資料協議会東日本
部会2007年度事業計画書(案)」
にもとづいて概括的な説明があつ
た後、「『全国大学史資料協議会
東日本部会の二十年の歩み(仮称)』
の編集」事業については村松玄太

氏（明治大学）より、「『大学史展（仮称）』の企画準備」事業について西山伸氏（京都大学）により、それぞれの事業内容が紹介された。

続いて、会計委員（慶應義塾）より配付資料「2007年度予算書（案）」にもとづいて説明があり、審議の結果、原案通り満場一致で承認された。

3、役員校の増員について

「東日本部会規約」第9条にもとづき、幹事会（事務局中央大学）より幹事の増員が提案され、審議の結果、大東文化大学の幹事就任が満場一致で承認された。

4、その他

幹事会（事務局中央大学）より配付資料「研究会テーマについてのアンケート回答」にもとづいて、アンケート結果が報告され、回答をくださった会員諸氏からも、ご意見の詳細をうかがった。また、幹事会としては、これらのご希望にできる限り対応してゆきたいとの説明があり、今後ともアンケートなどを通じて会員の意向を研究会運営に反映させてゆく必要があることを、総会参加者全員で確認した。

続いて、幹事会（事務局中央大学）より、現在西日本部会と検討を続けている協議会ホームページ作成の件につき、経過報告があつた。ホームページの基本的な性格が紹介され、検討中の作成案も会場に回覧されたが、現状では未定の問題もあるため、概要の説明にとどめた。

そのほか、出席会員からの議案提起はなかった。

閉会の辞 岸田 宏隆氏（日本大学常務理事）

講 演 会 高橋 則英氏

（日本大学芸術学部写真学科教授）
「写真資料の重要性と保存について」

総会終了後、高橋則英氏を講師として記念講演を開催した。高橋氏は、古写真の歴史を概観した後、写真保存の意義と具体的な保存方法について、映像を用いて詳細に報告された。なお、講演の内容については、会報『大学アーカイブズ』に掲載予定である。

情報交換会 総会終了後、日本大学会館食堂において、情報交換会を開催した。会場校を代表して日本大学の羽村弘之・田渕正和両氏（大学史編纂課）より開会の挨拶があり、中村青志氏（東京経済大学）の乾杯の音頭により開会した情報交換会では、和気あいあいの雰囲気の中、各校新任者の紹介と挨拶、会員間の交流や情報交換等が活発に行なわれ親睦を深めた。閉会の挨拶は東田全義氏（名誉会員）であった。なお、司会進行役は松崎彰氏（中央大学）が務めた。（出席者49名）

全国大学史資料協議会 東日本部会幹事会議事録（抄）

第77回 2007年3月15日（木）

12時30分～14時30分

会 場 日本大学会館第2別館（日本大学大
学院総合科学研究所）3F・小教室2

出 席 神奈川大学 慶應義塾 國學院大學
成蹊学園 中央大学 東海大学

東洋大学校友会 日本大学
 武蔵野美術大学 明治大学
 中村 青志（東京経済大学）
 西山 伸（京都大学大学文書館）
 挨拶 鈴木 秀幸氏
 （明治大学史資料センター）
 議事 (1)2007年度部会総会の運営について
 *部会総会の会場につき審議し、次回幹事会までに確定の上、運営を集中審議することとした。
 *研究会活動テーマについて審議し、「資料と展示」を年間テーマとして研究会を運営することとした。
 (2)2007年度の全国大会について
 *事務局(中央大学)より、前幹事会での審議事項を西日本部会に連絡し、審議をお願いしたとの報告があった。
 *慶應義塾での全国大会における謝礼処理上の不手際につき、関係者へのお詫びと謝礼の支払いを終了したとの報告があった。
 *大会運営については、西日本部会の検討結果を待って、次回に集中審議することとした。
 (3)役員校増員の件について
 *大東文化歴史資料館の役員校就任を了承し、部会総会に提案の上、承認を受けることとした。
 (4)その他
 *会長校（明治大学）より、「アーカイブズ関係機関協議会」への入会保留を国立公文書館へ連絡したとの報告があった。
 *西山伸委員より、「大学史展」の実施計画案が提起され、検討の結果、部会総会の承認を得た上で、2007年度事業計画中に特別会計を組み、企画準備に入ることとした。

*記念誌の編纂状況について、村松玄太主査(明治大学)より報告があり、誌名を「全国大学史資料協議会東日本部会の二十年の歩み」(仮称)とする予定であるとの説明があった。

*桑尾光太郎氏の協議会入会（個人会員）を、本年4月1日付けで承認した。

第78回 2007年4月26日(木)

12時30分～16時30分

会場 明治大学駿河台校舎
 アカデミーコモン2階A1会議室
 出席 神奈川大学 慶應義塾 國學院大學
 成蹊学園 中央大学 東洋大学校友会
 日本大学 武蔵野美術大学 明治大学
 中村 青志（東京経済大学）
 西山 伸（京都大学大学文書館）
 挨拶 鈴木 秀幸氏

（明治大学史資料センター）
 議事 (1)2007年度部会総会の運営について
 *事務局（中央大学）より、日本大学さんに会場をお借りし、5月24日に部会総会開催の運びとなったとの報告があった。

*日本大学より、部会総会にあわせて講演会を開催する提案があり、審議の結果、開催を決定した。

*事業報告を作成し、事業計画を検討した。
 *会計校（慶應義塾）より会計報告があり、あわせて新年度予算案の説明があった。

(2)2007年度研究会について
 *年間テーマ「資料と展示」に基づく研究会開催を検討し、7月に東京都写真美術館の見学会、12月13日に明治学院での研究会開催を予

定することとした。

*2008年1月・3月の研究会については、継続審議とした。

*部会総会の出欠届に、研究会への希望を記載する欄を追加することとした。

(3)その他

*会報編集（神奈川大学）より、会報36号の発送が完了したとの報告があった。

*2007年度全国大会の運営について審議し、全国研究会はテーマにそった基本方針に基づいて諸報告を構成しなければならない点を確認するとともに、設立年代・設立母体他の条件を勘案しつつ、具体的な計画案を検討した後、継続審議とした。

*謝礼・講演料等の支払いは、部会名簿に記載されている組織・会員以外に適用し、支払い金額は事案ごとに検討するという基準を、改めて確認した。

第79回 2007年5月24日(木)13時～14時

会 場 日本大学会館第2別館（日本大学大学院総合科学研究所）3F・大教室

出 席 神奈川大学 慶應義塾 國學院大學 成蹊学園 中央大学 東海大学

東洋大学校友会 日本大学

武蔵野美術大学 明治大学

中村 青志 西山 伸

議 事 (1)2007年度部会総会の運営について

*2007年度部会総会の進行と担当を確認し、会場を設営した。

*総会案内時に実施した「研究会テーマについてのアンケート」につき、回答の集計結果を総会に報告することとした。

*事務局より、オブザーバー参加希望が届いているとの報告があり、その参加を承認した。

(2)2007年度の全国大会について

*事務局より、全国大会の準備状況について報告があり、企画案を西日本部会へ送付して検討をお願いしたこと、北海道大学・皇學館・関西学院の3校に報告を依頼したこと等の説明があった。

(3)その他

*神奈川大学より、大学史資料協議会ホームページ作成の件につき提案書（新版）が出された。検討の結果、同案を承認し、西日本部会幹事会に送付して検討を依頼することとした。その際、経費負担については、東西両部会の等分したい旨を申し送ることとした。

第80回 2007年7月10日(火)13時～14時

会 場 東京都写真美術館 4F会議室

出 席 神奈川大学 慶應義塾 國學院大學 成蹊学園 大東文化大学 中央大学

東洋大学校友会 日本大学

武蔵野美術大学 明治大学

会長校挨拶 鈴木 秀幸氏

(明治大学史資料センター)

議 事 (1)2007年度の全国大会について

*事務局より、全国大会研究報告を依頼していた、北海道大学・皇學館・関西学院の3校から、内諾を頂いたとの報告があった。

*事務局より、全国大会見学会は川崎市公文書館と交渉したいとの説明があり、了承された。

*今後は、大会案内状やパンフレットの作成を急ぐこととした。

(2)大学史資料協議会ホームページ作

成の件

- *西日本部会に検討を依頼していた大学史資料協議会ホームページ作成提案書（新版）の件につき、同部会より了承の回答を得たとの事務局報告があった。
- *東西両部会の合意に基づき、ホームページ作成に着手するよう、神奈川大学に依頼した。
- *なお、経費分担について、西日本部会より会員校数比の分担案が提起されたため討議したが、研究叢書のような出版物を分ける場合は冊数によって負担額を決定するは当然であるが、ホームページは分割不可能であり両部会で対等に運営すべきではないかとの意見が多く出された。そのため、経費分担については継続審議とし、西日本部会へも再検討をお願いすることとした。

(3)その他

- *吉川隆博氏の協議会入会（個人会員）を2007年6月18日付けにて承認する。
- *神奈川大学より、会報『大学アーカイブズ』No.37の構成案が提起され、検討の結果、了承された。
- *明治大学より、エーデルワイスミュージアムの紹介があった（西日本部会奥田素子氏情報提供）。

**全国大学史資料協議会
東日本部会研究会記録（抄）**

第55回 2007年3月15日(木)14時30分～17時
 会 場 日本大学会館第2別館（日本大学大
 学院総合科学研究所）3F・大教室
 出 席 神奈川大学 慶應義塾 皇學館

國學院大學 芝浦工業大学
 上智大学 成蹊学園 専修大学
 大東文化大学 中央大学 東海大学
 東京経済大学 東洋大学校友会
 日本体育大学 日本大学 法政大学
 武蔵野美術大学 明治学院 明治大学
 東田 全義（名誉会員）
 内山 宏（日仏図書館情報学会）
 中村 青志（東京経済大学）
 西山 伸（京都大学大学文書館）
 （以上36名）

会長挨拶 鈴木 秀幸氏
 (明治大学史資料センター)

司会 田淵 正和氏
 (日本大学大学史編纂課)

報告 小松 修氏
 (日本大学資料館設置準備室)
 「『日本大学百年史』編纂の総括と展望」

見学会 日本大学資料館設置準備室ギャラリー
 を自由見学。

概要 小松氏の報告は、『日本大学百年史』の編纂事業を、現時点から今一度総括し、その成果と課題を確認することによって、今後の活動に生かそうとするものであった。報告は、「1.『日本大学百年史』の編纂」・「2.成果と問題点」・「3.今後の大学史に関する諸活動」の3部からなり、テーマごとに詳細な説明が加えられた。すなわち、第1部では、日本大学における過去の年史編纂事業を概観した上で、『百年史』編纂の理念や編纂方針、編纂体制を紹介し、活動の実態と年史刊行の経緯をまとめた。また、第2部では、刊行された『百年史』の特徴を、従来の年史に比べて基礎的資料に裏打ちされた分析が加えられている点に求め、そ

の結果、史実の再検証や歴史叙述の分野で大きな成果があったと位置づける反面、編纂理念から振り返れば、不十分な面も多々あることを指摘した。そして、第3部においては、日本大学が直面する課題が総括され、編纂事業の理念を継承しつつ、組織的・継続的な資料保存の体制を構築し、学内外に向けて資料活用の輪を広げてゆくことが、『百年史』編纂事業で残された諸課題を克服する道であると結論づけた。

討論では、はじめに『日本大学百年史』を監修された村井益男先生より、編纂委員会中における、編纂理念や基本方針の審議経緯が補足され、編纂事業の全体像がより明瞭なものとなった。また、質疑応答では、編纂事業で収集された諸資料の保存状況や、資料館準備室と大学史編纂課との関係、現在の活動状況等に関する質問と、それらへの応答があったが、討議された問題のほとんどは、早期に資料館を建設することにより、状況が好転するのではないかとの感を強く持った。 (松崎 彰)

第56回 2007年7月10日(火)14時～17時
 会 場 東京都写真美術館 1F ロビー集合
 出 席 神奈川大学 慶應義塾 恵泉女子学園
 國學院大學 自由学園 上智大学
 成蹊学園 専修大学 創価大学
 大東文化大学 中央大学
 東京女子医科大学 東京農業大学
 東洋大学校友会 日本女子大学
 日本体育大学 日本大学
 武蔵野美術大学 明治大学
 立教大学
 青柳 小百合 (株・ニチマイ)

(以上29名)

挨 拶 今村 保雄氏

(東京都写真美術館副館長)

司 会 渡辺 和子氏

(東京都写真美術館事業企画課)

施設見学 渡辺 和子氏

三井 圭司氏

(東京都写真美術館専門調査員)

展示見学 * 3階展示室

「昭和」写真の1945-1989 第1

部オキュパيد・ジャパン (昭和20年代)

* B 1階映像展示室

世界報道写真展2007

概 要 今回の見学会では、JR山手線「恵比寿」駅から徒歩7分ほどの恵比寿ガーデンプレイス内にある「東京都写真美術館」を訪問した。初めに副館長の今村保雄氏より次のようなご挨拶があった。同美術館は日本で初めての写真と映像に関する総合的な美術館として1995年に設立された。ソフトとしての写真や映像のコレクションをいかに後世に引き継ぐかという観点から、温湿度の調整と保存修復の専門家による資料の保存管理に細心の注意を注いでいる。それと同時に館長の福原義春氏の言葉「文化は人々の心を良い方向へ導くために役立つもの」というポリシーにより一般公開を原則としている。今後の課題は、図書館や博物館などの内外のネットワークをいかに築いていくかという点にあるという内容であった。

次に2グループに分かれて、保存科学研究室、収蔵庫、図書室の館内3つの施設を見学した。保存科学研究室では、写真保存の専門スタッフ

から写真の劣化の原因についての説明を受けた。展示室、作業室、収蔵庫のそれぞれの温度湿度を別々に設定しているということであった。修理に関しては、写真そのものには手を加えずに保護処理として修復を行っている。実際に写真を取り扱う上での参考になる具体的で示唆に富む説明であった。

収蔵庫には、約2万3千点の作品が保管されていて、ジャンルとしては1) 映像作品、2) 海外の作家、3) 国内の作家の3つに分けられる。収蔵庫の相対湿度は50%に保たれているが、作品の保存条件に合わせて、2階の収蔵庫には1つの庫内にさらに温度設定が異なる2つの収蔵庫がある。1つは10°Cで湿度、もう1つは5°Cに設定されている。また、作品はマッティングにより、直接作品に手を触れずに移動できるようにしておらず、1つの中性紙箱に10~15枚をベースに収めて、中性紙箱が酸性に傾いたら取り替えるなどの配慮をしている。また、防虫のために入口にブルーシートを敷く措置は行っているが、燻蒸は一切行っていないという話であった。

図書室は、蔵書約5万9千冊を所蔵し、また約1,000タイトルの雑誌を所蔵する。温度は20°C、湿度は50%に設定している。書架は集密書架を利用しておらず、分類は写真がP、映像がVとして独自分類を使用している。保存用と閲覧用とを区別し、雑誌にはラベルを貼付せず、ポリプロピレンのカバーをつけ、ホチキスでとめてある雑誌については紙のヨリにかけかえるなどの措置を行っ

ている。また、「アサヒカメラ」、「LIFE」は創刊号から所蔵していることもこの図書室の特色の1つである。なお、蔵書データは、アート・ドキュメンテーション学会のOPACに情報を提供されている。

一通りの見学会が終了した後は、開催中の企画展のうち3階の「昭和写真の1945-89 第2部ヒーロー・ヒロインの時代」、地下1階の「世界報道写真点2007」の2つの展示会場を各自が自由に見学をした後、流れ解散となった。各参加者が所属機関が所蔵する膨大な量の古写真の扱いについて日頃さまざまな疑問を抱いていたようで、見学中は、説明担当者に対して活発な質問がされたことからも、今回の見学会は、各自が今後の業務遂行の上で役立つ情報を得る良い機会となったように思われる。

(赤堀 美和子)

ご案内

全国大学史資料協議会及び同協議会東日本部会に関するお問い合わせ、入会申し込みは、下記へご連絡ください。

【中央大学・大学史編纂課】

〒192-0393 八王子市東中野742-1

☎ 0426-74-2132

【武蔵野美術大学・大学史史料室】

〒187-8505 東京都小平市小川町1-736

☎ 042-342-6091

会報編集

【神奈川大学・大学資料編纂室】

〒221-8686 横浜市神奈川区六角橋3-27-1

☎ 045-481-5661